

意識的な、あるいは誤解、憶測等による

生協への中傷について

— 全教職員・学生諸君に訴える —

最近、「生協が全共斗に対して資金を横流ししている」あるいは「特定の団体に生協の出張費という名目で金を渡し全国オルグにまわらせている」という事実無根の中傷が流れております。それを聞いた教職員・学生・卒業生等の方々からたびたび生協に対して真偽を確かめようとする問い合わせがあることから判断しますと、どうも学内の一部の人たちが意識的にこのような中傷を広めておられるように見受けられます。そのため、様々な誤解や憶測が生まれているもようで、生協として非常に迷惑しております。

これらの行為は、多くの組合員に疑惑の念を抱かせることによって生協組織を混乱させ、ひいては生協破壊につながるものといわざるをえませんので、ここに次のように生協の見解を表明いたします。

1. 生協は物資の供給等を通じて、教職員学生の福利厚生に寄与する事業体であるとともに、かかる目的達成のために積極的に運動を行なう生活の自主防衛組織であります。たとえば、今から約4年前に行なわれた医学部付属市大病院第二新館への生協誘致運動は、それ自体は日常供給活動と直接関係ありませんでしたが、生協の運動体としての側面を発揮したものであったといえます。従って、学内の諸運動に対しても、それが組合員の利益を守ることになるという判断にたてば、支持してともに連帯することは、上記のような性格をもつ生協として当然のことであります。
2. しかし、生協は生協独自の主体性をもった機関運営組織であり、全共斗あるいは他の諸団体に対する態度のいかにかわらず、金品を全共斗あるいは他の諸団体に横流しするようなことは、組合員の財産をあずかる生協としてありえないことであります。そしてまた、実際にそのような事実は全くありません。
3. 生協はこのような立場から、金品の管理に万全を期すために、総代会で選ばれた監事(教員1名、学生1名)以外に、更に外部の公認会計士と契約し、毎月定期的に監査を実施しております。そして「正しい経理が行なわれている」という報告がされております。その上に、生協では、それが組合員自身によって作られ支えられているという考え方に立って、経理を組合員に対して公開しているわけです。
ちなみに、昭和43年度1年間に支出された出張費は、理事会が8,616円、組織部が0円(彼らは自弁で出張しています)ということになっております。

4. 以上のことから明らかなように、そのような中傷を意識的に流している人たちは、もちろんはっきりした根拠を持ち合わせているわけではなく、そうではなくて何らかの意図を持っておられるとしか考えられません。

生協としては、これまで述べてきたことからいって全く心外であり、そのような無責任かつ悪質な中傷をまことしやかに流している人たちに対して、ただちにきっぱりとかかる行為を止めていただくよう要求します。それと同時に、かかる故意の中傷によって、誤解ないしは憶測を抱いておられる方々にも、生協の立場と実体を理解し、誤解を解いていただきますようお願いし、かつ訴えるものであります。

5. 生協は全国初の病院内総合生協事業所を昨年実現し、更に第二学生ホール獲得に向けて精力的に活動しています。大学の危機の中で、生協もまた大きな困難に直面しておりますが、役員から従業員の一人一人に至るまで、生協と運命を共にし組合員とともに前進する決意でありますので、今後とも力強いご協力をお願いいたします。

昭和44年4月11日

大阪市立大学生活協同組合

常任理事会